

島野浦中学校区（12月17日(月)開催・島野浦島開発総合センター）第二部懇談会（部長）

質 問	部長の回答	対応状況
<p>【避難経路について】</p> <p>防災の関係で明日担当の方が来ると連絡があった。場所を見てもらって避難経路の新しい指定をお願いしたい。また必要なところに手すりをつけるなどしてもらいたい。</p>	<p>（企画部長）</p> <p>今までも島野浦の中で津波避難道路ということで協働共汗事業で整備をしていただいていると思うが、これからも必要なところがあれば要望していただければスケジュールの中でそれを組み込んでいく。今年度事業に間に合わなければ次年度に予算化して整備していくということになると思う。いざという時にどのように動いたら良いかをしっかりと地区の皆さんとお話していただいて、要望を上げていただければ予算化して早速避難経路を整備していきたい。</p>	<p>まず、これまで整備してきた避難路に手すりを設置して欲しいとの要望に関しては、区と現地を立会、今年3月に整備を実施しております。</p> <p>次に新しい避難路整備に関しては、区より相談を受けておりますので、今後、区と現地調査など行い整備の方法などについて協議を行っていきたくと考えております。</p> <p>【危機管理室】</p> <p>○協働・共汗津波避難路整備事業【拡充・増額】 （H31年度予算：7,600千円）</p>
<p>【南海トラフ発生時の避難場所等について】</p> <p>南海トラフになった時、半割れ（大規模地震）で1週間ほど避難が必要だと言っている。一時的な避難なら神社でもどこでもいいが、1週間も避難する場所がない。寒くなった時に、毛布が無い、建屋が無いという場合の時にどうすればよいのか。</p>	<p>（企画部長）</p> <p>皆さん経験もないしご心配だと思う。台風であれば1～2日で通り過ぎるが、地震・津波となると規模が大きく期間が長くなる。その間、水や電気が止まる中でどう過ごしていけばいいのかということをご心配されると思う。ある程度、備蓄の方向なり、いざという時はどうすればいいのかといったことを事前に地域の皆さんで話し合っていただくことが非常に大事だと思う。</p>	<p>南海トラフ沿い（東海・東南海・南海地震沿い）の一部の地域でマグネチュード6.8以上の地震が発生した時など、気象庁は直ちに、有識者の意見を踏まえ、今後1週間程度以内に、南海トラフ沿い全域に影響の可能性がある判断した場合には、国は、関係する沿岸市町村に対して、「南海トラフ地震情報」（巨大地震警戒）もしくは（巨大地震警報）を発表することとしております。</p> <p>（例）東日本 M6.8以上の東海地震が静岡県で発生 東南海（関西地区）東海（中国・四国・九州）沿いの自治体に臨時情報発表</p>

島野浦中学校区（12月17日(月)開催・島野浦島開発総合センター）第二部懇談会（部長）

		<p>この発表を受け、市民のとるべき行動として、日頃から地震の備えを整え、避難行動に手助けを要する要配慮者については、事前に避難するとともに、それ以外の市民については日常の社会活動を行いながら、状況に応じて自主的に避難することとしております。</p> <p>市としましても、今後、国のガイドラインを踏まえ、ある程度の長期避難が必要な地区の選定にこれから取り組むとともに、島野浦島においても、ある程度、長期避難が可能な避難場所の選定や備蓄などについて、区と協議を進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>【南海トラフ発生時の避難場所等について】</p> <p>地域のみなさんで話し合いといっても経験がないのでアイデアの出しようがない。東北などで震災を経験した方で防災士をしている方に危機管理室の方とまず来てもらって島の現状を見てもらい、区長や役員と話し合ってもらうようにしてほしい。そして島に不足しているものを具体的に指摘してもらい、島で準備できるもの、市で準備できるものは何なのかを明らかにする段取りをやってもらえたらいいのではないか。</p>	<p>(ご意見として伺う。)</p>	<p>平成 31 年度予算において新たに島野浦担当の地域おこし協力隊員を配置することにしていきます。</p> <p>そのような人材も含めて地域の皆様方と話し合い、課題を一つ一つ解決していきたいと考えております。</p>

島野浦中学校区（12月17日(月)開催・島野浦島開発総合センター）第二部懇談会（部長）

<p>【夜間時の避難経路、避難訓練について】</p> <p>緊急の時に避難経路が真夜中でもわかるようなシステムがほしい。また、避難訓練については、コミュニティスクール化を進めないといけない。延岡市は遅れている。地域をあげて避難訓練をやらせないといけないと思う。</p>	<p>（企画部長）</p> <p>地域の中では学校施設が一つの避難所になり、災害後も復旧の拠点なので、学校と上手く連携を取ってほしい。子どもたちも自分たちがいざという時にどう動けばいいのか。地域の高齢者に声かけをして自分たちが一緒に安全な場所に誘導できるということも避難訓練の中で学ぶことができる。先ほど夜間に災害がくるという話もあったが、訓練の中でもさまざまなケースを想定しながら地域で一緒になっていざという時の体制考えていただくのは非常に大事なことだと思う。</p>	<p>本市におきましては、平成26年に津波の浸水想定域や浸水深、指定緊急避難場所が掲載された、延岡市津波ハザードマップを作成し、全世帯に配布させていただいております。</p> <p>まずは、ハザードマップをご覧ください、避難場所、避難経路をご確認下さい。</p> <p>また、真夜中の対応につきましては、これまで広報のべおかや防災講話でもご説明させていただいておりますように、各家庭、各個人においての備蓄、災害用非常持ち出し品（懐中電灯含む）の準備をお願いしているところです。</p> <p>避難訓練のコミュニティスクール化についてですが、島野浦区におきましては、区が中心となり、毎年、10月頃に津波の避難訓練を行っております。</p> <p>今後、地域の避難訓練にご参加いただき、コミュニティスクール化を進めていただきたいと思います。</p> <p>なお、これまで、旭中学校区、東海中学校区、南中学校区において、区と学校が協働して避難訓練等を行っておりますので、島野浦中学校区におきましても、各校区をご参考にされ、同様の取り組みを進めていただきたいと思います。</p>
--	---	---

島野浦中学校区（12月17日(月)開催・島野浦島開発総合センター）第二部懇談会（部長）

<p>【漁村留学について】</p> <p>福岡県宗像市の地島に視察に行ってきた。漁村留学といっても個人の家で預かるのはなかなか大変。学校の形式をとって、実際どのくらいの経費がかかって市の負担がどれくらいということをやっていたか。</p>	<p>(商工観光部参事)</p> <p>市長は島野浦に対して思い入れが深い。活性化を何とかしないといけないということで、かなりいろんな指示を出している。疑問点や課題があるが、そこを今整理している段階。</p>	<p>ご指摘のございました福岡県宗像市の視察については、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成15年から始めた漁村留学も累計90名前後になり、島の小学校の存続に貢献している。 ・現在は、留学生5名、地元5名で半分は留学生である。 ・校長の話によると、地元の児童にとっては留学生の存在が学力等さまざまな面で非常に有効である。 <p>また、留学生にとっても貴重な体験ができることが良いということで双方にとって非常に良いということだった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初、児童の寮は廃業した民宿を利用していたが、2年前に国補助事業を用いて「なぎさの家」という寮を新たに整備した。補助事業は離島振興事業を活用しており、建物には寮の他に診療所、待合所等の複合的な機能を有する。 ・留学生の対象は4～6年生で、低学年は厳しいとのこと。毎年20名前後の応募がある。 ・選考は学校の先生や地島地区漁村留学を育てる会で行い、十分な協議の上で可否を決定。 ・総会資料を見ると、宗像市は5,000千円前後の支援をしている。支援をしなければ島の小学校は廃校になり、島の活気がなお一層無くなるという切実な事情がある。 ・留学生の保護者からは4万円の他に教材費等を徴収している。 ・子供たちは夏休みには家に帰す。 ・島民全体の協力体制が整備されていて素晴らしかった。 <p>今後については、地元の方々と良く話し合いながら、検討していきたいと考えています。</p> <p>なお、この度、地域の方々の要望もあり、島野浦小学校と中学校の小中一貫校化の検討を行うこととしておりますが、総務省の所管するICT事業（地域IoT実装のための計画策定・推進体制構築支援事業）の指定も受けましたので、今後ICTを活用した同小中の学びの環境を整えていきたいと考えております。</p>
---	--	---

島野浦中学校区（12月17日(月)開催・島野浦島開発総合センター）第二部懇談会（部長）

<p>【浦城駐車場の有料化について】</p> <p>日豊汽船の乗り場の事務所の前の16台くらいを有料化し地区外専用車スペースとしてほしい。皆さんが島野浦へ観光に来てという前に、来た時は駐車スペースもありますよと一貫性をもたせてほしい。</p>	<p>（企画部長）</p> <p>一つ一つがこれをして終わりではなくて、島に関わってくれる人をいかに沢山来てもらえるのかということを考えれば車などの交通手段も必要だし駐車場も必要になる。いろんな部分で繋がっていると思う。</p>	<p>浦城での駐車場の確保は重要な課題であり、どのような対応ができるか、さらに検討してまいります。</p>
<p>【日豊汽船の補助制度等について】</p> <p>日豊汽船を黒字にしたいと思っているが、今の補助制度では儲かればそれだけカットされる。だから何もしない。フェリー代にも行政から補助をしてほしい。</p>	<p>（ご意見として伺う）</p>	<p>当該航路をはじめ全国の離島航路の大半は赤字経営ですが、島浦航路は重要な生活航路であるため、維持を図るうえで市はもとより、国・県からも補助金を支出し日豊汽船を支援しています。</p> <p>国からの支援は、高速艇とフェリーの運航による日豊汽船の経営状況について、監査を受けたうえで支給される仕組みになっており、これらの支援が無ければ航路の維持も困難であるため、まずは航路の維持を最優先にしっかりと取り組んでいきます。その上で、今後航路の経営改善を図るためには、島民以外の方の利用を促進していくことが重要であると考えております。</p> <p>このため、島の魅力の発信や観光資源の磨き上げ、島の活性化に資する新たな事業の創出など、来島者の受入環境を整えていく必要があります。</p> <p>このような課題解決を図るために、昨年度より立ち上げた「島業」推進協議会の取り組みの推進や、地域おこし協力隊の制度の活用などと併せて、これまでの離島振興策も継続させながら、島浦町と協働で離島振興を図ってまいります。</p>

島野浦中学校区（12月17日(月)開催・島野浦島開発総合センター）第二部懇談会（部長）

<p>【予算面を含めての市のバックアップについて】</p> <p>島野浦のパンフレットもみんなで10数万円集めて作成した。観光戦略課が少しでも予算をくれてもいいと思う。</p>	<p>（ご意見として伺う）</p>	<p>本年度、観光推進事業補助金を活用し「島野浦西国三十三観音巡りマップ」を増刷しました。</p> <p>（事業主体：ひむか遊パークうみウララ推進委員会）</p> <p>【島野浦西国三十三観音巡りマップ】</p> <p>平成22年度初版（財源：文化庁補助金）</p> <p>内容の一部見直しを行い本年6月に増刷済み</p> <p>（増刷部数：2,000部）</p> <p>作成費：82,080円</p> <p>（ひむか遊パークうみウララ観光推進事業補助金を活用）</p> <p>今後さらに観光振興を図るため、島業推進協議会での関係者による意見交換を行いながら各種事業に取り組んでいきます。また、本年度に採用を予定している「地域おこし協力隊」等とも連携しながら一緒になって様々な課題等の解決に取り組んでいきたいと思ひます。</p>
<p>【島の活性化について】</p> <p>いろいろな経験を積んで別の角度から見してくれる人に助言いただきながら我々が具体的に協力するという体制が必要。一次産業は厳しい現実の中にある。県にも働きかけていただきたい。山口の大津島に視察に行った。スダイダイで地ビールを生産している。今年6,000本売ったらしい。</p>	<p>（商工観光部参事）</p> <p>オリーブオイルとか開発したりする事例はいろいろある。先ほどの留学の関係は今かなり盛んになっている。島の皆さんと来られた方の交流が深まって島全体が活性化していくということで、やはり事例を研究する必要がある。</p>	<p>平成31年度は島野浦を担当する地域おこし協力隊の配置や、「島業」創出支援事業により、新たな視点からのビジネスプランなどの提案を広く募ってコンテストを行うなどの取り組みを行いますので、その中で島の新たな活路を見出していきたいと考えています。</p> <p>【企画課予算】</p> <p>○地域おこし協力隊事業【拡充】</p> <p>（H31年度予算：26,986千円）</p>

島野浦中学校区（12月17日(月)開催・島野浦島開発総合センター）第二部懇談会（部長）

<p>【島内の有線放送設備について。】</p> <p>老朽化がひどい。放送設備を無線の設備に取り替えてくれないか。修理しても有線では台風や風雨で聞こえなくなる。今年だけでも修繕費用が50万以上かかっている、費用は漁協と区で折半している。</p>	<p>(企画部長)</p> <p>地区の放送設備は受信機まで屋内に設置されているので、それと同じような環境で新しくすると、かなり予算的にも厳しくなる。一つの方法としては無線タイプで電波を飛ばしながら屋外にスピーカーを何か所か設けておいて、一斉に放送するような方式にするといくらか予算的に安くなる。</p>	<p>島浦町の放送設備につきましては、平成30年度に「防災無線放送設備」を設置したところですが、各家庭への受信機はなく大雨時には聞こえづらいとの要望を受け、防災無線を漁協所有の有線放送設備に繋ぎ込み、各家庭の受信機での情報伝達を可能としたところでございます。</p> <p>一方、水揚げ情報などの伝達に利用される漁協所有の有線放送設備につきましては、平成10年度にアンプ一式、屋外スピーカー22台、屋内スピーカー335台が総事業費32,000千円で設置されております。</p> <p>今回要望のあったコミュニティ無線放送の新設につきましては、概算の設置費用として、30,000千円程度、ランニングコストとして100千円/年程度が見込まれますので、まずは、島内における実施主体の検討をはじめ、設置費やランニングコストに係る実施主体又は各世帯におきます負担割合・方法などのコンセンサスづくりが必要と考えます。</p> <p>また、市としましては、利便性向上や経費削減等の課題解決に向け、国県補助事業の活用や防災無線との連携に向けた技術協力などにつきまして、地元の皆様と協議しながら検討してまいりたいと考えます。</p>
--	--	---